

# 人文学部卒業研究

題目 相撲の変化を考える  
～外国力士の増加について～

---

指導教授 都築耕生 印

---

提出年月日 2019年 3月 5日

---

学籍番号 HI15004

---

氏名 有本征矢

---

相撲の変化を考える  
～外国人力士の増加について～

HI15004 有本 征矢

要旨

本論では、文献や新聞記事などのメディアにおける大相撲の外国人力士の扱いなどをもとに、日本の大相撲における彼らの存在について探り、大相撲に与える影響を検討した。また、人々が大相撲文化をどのように考えているのか、継承を望んでいるのかなどをアンケート調査の結果から分析し、今後の大相撲の行方について考察した。

近年、外国人力士の活躍が多く見られる一方、彼らによる不祥事も紙面を賑わせており、彼らの存在にに対しては賛否両論がある。そもそもは、上下関係や練習など、修行が厳しい大相撲においては新弟子が不足し、実力のある者を確保できなかった相撲部屋が、自分の相撲部屋から関取を輩出したいという理由から、体が大きくハングリー精神もある外国人をスカウトし、育成したことから外国人力士は生まれた。その後、活躍して昇進し、名を挙げる外国出身力士の姿を見て、自発的に来日して大相撲に入る者も現れ、現在に至っているわけである。

実際には、現在大相撲力士 653 人中わずか 32 人にすぎない外国出身力士であるが、2008 年初場所ではモンゴル出身の朝青龍と白鵬が東西横綱を務め、2014 年には、白鵬・日馬富士・鶴竜という 3 人のモンゴル出身力士が横綱に在位するに至ったため、特にモンゴル人力士の存在感は人数以上に顕著となっている。

そこで、本研究ではまず外国人力士の歴史を調査し、主流がハワイ出身力士からモンゴル力士に移っていった背景などについて記述した上で、外国人力士をモンゴル人力士、その他の外国人力士について分けて調べた。また、外国人力士の強さについて、文献や新聞記事を使い明らかにした。

その上で、人々が大相撲に対してどのような意識をもっているのかを探るためにアンケート調査を実施し、10 代～80 代の幅広い年齢層に①大相撲は好きか、②大相撲観戦会場に行ったことがあるか、③大相撲は今後も継承していく必要があるか、④大相撲協会が中心となって相撲文化を継承する必要があるか、について回答を求めた。

分析の結果、大相撲は高齢者を中心に興味があり、若者では、相撲に興味を示している人が少ないという傾向であった。若者の女性には、相撲に興味を示す人は特に少ないことがわかった。しかし、それにもかかわらず、老若男女を問わず、今後も大相撲を継承して欲しい、大相撲協会が中心となって大相撲を継承していくべきと考える人が多いという結果であった。

これらの文献・メディア分析とアンケート調査の分析結果を踏まえた考察の結果、大相撲はこれからも継承していく必要があると結論づけた。

キーワード

大相撲、外国人力士、ハングリー精神、大相撲協会

## 目次

序論.....	1
第1章 大相撲界を取り巻く環境.....	1
1-1 近年の外国人力士の活躍と増えた理由.....	1
1-2 近年の不祥事の問題について.....	6
1-3 外国人力士の歴史.....	8
1-4 モンゴル相撲（ブフ）.....	9
1-5 モンゴル人力士.....	10
1-6 モンゴル人力士以外の外国人力士.....	11
1-7 大相撲以外のスポーツでの外国人選手.....	13
第2章 大相撲界の現状.....	14
2-1 大相撲の歴史.....	14
2-2 大相撲の魅力.....	16
2-3 引退後の力士はどうか.....	17
2-4 大相撲協会という組織.....	18
第3章 分析.....	19
3-1 研究方法.....	19
3-2 分析結果.....	20
3-3 考察.....	23
第3章 結論.....	24
参考サイト.....	25
参考文献.....	28
引用記事.....	28